

ISHIBASHI Shiro  
Gray in Light

『Tone』 2020 1620x1303mm (photo by Takeru Koroda)

6/2(水) - 12(土)

PM 12 - 7 (最終日~PM5) 日・月・火曜 休廊



おおらかに眺めることができ、静かにうつろう光を放ち続ける作品を生み出してみたい。日本画の素材と対話しながら解決していきたいと思う。  
石橋 志郎

1981 大阪府豊中市出身  
2005 京都市立芸術大学美術学部日本画専攻卒業  
2007 同大学大学院修士課程美術研究科絵画専攻修了

個展

2019「絵画と輝度」 ギャラリーあしやシュレ(兵庫)  
2019「灰色と光」 カホ・ギャラリー (京都)  
2018「空間、光」 ギャラリー恵風 (京都)

企画展・グループ展

2021「京都日本画新展2021」 美術館「えき」京都 大賞  
2020「透明」 2kw gallery(滋賀)  
2019「藝文京展 EX つなぐ」 京都芸術センター  
2018「尖展」 京都市美術館  
2018「京都府新鋭選抜展 2018 - Kyoto Art for Tomorrow - 京都文化博物館  
2017「内接/外接」 +1 art (大阪)  
2014「第1回 統・京都 日本画新展」 美術館「えき」京都 優秀賞  
2013「トーキョーワンダーウォール 2013」 東京都現代美術館 トーキョーワンダーウォール賞

ドイツの文豪ゲーテはニュートンの光学理論を批判して「色彩論」という本を書き「色は曇りの中にある」と言っています。「曇り」というのは、白(光)と黒(闇)の間にある「グレー」ゾーンのことのようです。彼に言わせると、夕焼けが赤いのは薄闇を通して陽光を見るからで、青空は陽光を通して暗い宇宙を見るから。光と闇の間にある曇り(灰色)の中に青も赤も含まれるとゲーテは感じました。

石橋志郎の絵画を見ると、ゲーテの言葉を思い出します。日本画の素材の特質を熟知した石橋が描く絵画は灰色(複数形)に見えます。岩絵具・胡粉等の粒子を重ねた画面に当たった光は、その中で複雑に屈折あるいは乱反射して観る者の目に届きます。光はすべての色を含みます。灰色の画面の中で屈折を繰り返して出てきた光を見ると「色はグレーの中にある」と言ったゲーテの言葉が蘇ります。さらに深みをました石橋志郎の「灰色」をご高覧ください。  
+1 art カワラギ

Soft hope

+1art オンラインショップでは、「やわらかい希望/soft hope」シリーズを順次発売中です。第7弾は石橋志郎作品。本展と同時に販売開始します。



+1art

542-0012 大阪市中央区谷町6-4-40  
www.plus1art.jp TEL 06-7712-6685

